

阿寒富士西麓の森のアカエゾマツ林床における風穴、 風穴植生等の調査研究及びその報告書の制作

十勝自然保護協会

事業概要

足寄町オンネトー南側の阿寒富士西麓の森には、当会は、2017年頃から自然探索を始め、その植生の特徴、風穴の存在、景観のすばらしさを認識してきました。アカエゾマツ主体の林内に、低標高でありながら、イソツツジ、コケモモなど高山性の植物が繁茂し、また蘚苔類も高山性ミズゴケ類が多く、このことは凍土の環境にあることが推測される地域です。

阿寒摩周国立公園においては雄阿寒岳山麓にも風穴が見られますが、阿寒富士西麓の森については、風穴及び風穴による低温湿潤な環境に依存した特殊な植生や蘚苔類の調査はほとんど行われておりませんでした。

2022年初夏に佐藤謙氏（北海学園大学名誉教授）の植生調査に同行し、同年秋、乙幡康之氏（ひがし大雪自然館学芸員）の蘚苔類調査に同行し、幅広い調査をすべきことを確信し、2023年の事前調査に基づき、2024年4月から、風穴と風穴による低温湿潤な環境に依存した特殊な植生や蘚苔類を3人の専門家（清水長正氏、指村奈穂子氏、乙幡康之氏）に依頼し調査しました。調査地は阿寒摩周国立公園第2種特別地域であり国有林でもあるため、環境省及び林野庁十勝東部森林管理署の許可を得て行いました。

コドラート（10m×15m）を2か所に設定し、風穴の確認、地形高低の測量、地温・気温の計測、森林植生、蘚苔類の調査を数回にわたって実施しました。また、冬期には、調査地上部で温風穴の探索を行い確認しました。

今回の調査によって、この地域の知られていない多くのことが見えてきました。

玄武岩質熔岩流の凹地での多数の風穴による低温環境が確認され、冷風穴・温風穴が地下で通じている可能性もできました。風穴を含む凹凸地形の狭い範囲内に多様な植物が生育している特徴があげられました。蘚苔類では、ゴレツミズゴケなど北海道で希産種とされる種が3種確認され、うち2種は阿寒摩周国立公園では初確認種であることが報告されました。すなわち、ここは極めて珍しい自然環境をもつ地域であるということです。

調査報告書『阿寒富士西麓の森林と風穴の自然 調査報告2025』を刊行し、足寄町内関係機関、十勝管内の教育関係・図書館・博物館、環境省、林野庁などに進呈しました。また、3月29日に足寄町内で調査報告会を開催し70名を超える参加者がありました。調査者3人が直接語られ多数の質問がありました。また、カラー印刷の調査報告書300部も多数の方に広まり各方面からの反響があり、現在は残部少数で増刷も検討中です。

今後の課題として、玄武岩質熔岩流の終末までの調査、風穴及び風穴周辺の低温湿潤環境の分布域、コケモモやイソツツジの生育範囲、ササ出現の確認、低温環境で生息する歩行性昆虫の確認、雌阿寒岳山麓のアカエゾマツ林内との比較調査、温風穴の探索などがあり、この地の風穴のメカニズムの糸口を見つけたいと思います。

調査研究者が遠方の方であり、また調査地も遠方であることにより、貴財団の助成のおかげで本事業が多大な収穫を得て終了できました。改めてお礼を申し上げます。

画像データ

1 調査区周辺のコケむすアカエゾマツ林



2 調査風景

